

高等学校学習指導要領解説数学編第 1 章 1 節 2 (2) 育成を目指す資質・能力の明確化 (pp.3-4) から

1 以下の文章の空白を埋めよ。

・・・予測困難な()の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような()を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの()を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の()となる力を身に付けられるようにすることが重要であること、こうした力は全く新しい力ということではなく学校教育が長年その育成を目指してきた「()」であることを改めて捉え直し、学校教育がしっかりとその強みを発揮できるようにしていくことが必要とされた。また、()能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、知識及び()と思考力、判断力、()等とをバランスよく育成してきた我が国の学校教育の蓄積を生かしていくことが重要とされた。

このため「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「()・技能」の習得)」、イ「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・()・表現力等」の育成)」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「()に向かう力・人間性等」の涵養)」の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされた。

今回の改訂では、知・徳・体にわたる「生きる力」を生徒に育むために「()」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、全ての教科等の目標や内容を「()」、 「()」、 「()」の三つの柱で再整理した。

2 内容から解答を導くポイントと考えたことを述べよ。

3 この問題の解答を自己評価し、

気づいたこと、感じたことを述べよ。

■ 5段階自己評価 ()

■